



OVERSEAS

Hashemite Kingdom of Jordan

—ヨルダン・ハシェミット王国—

海外事情



多国籍な料理と悠久の遺跡



平井 孝幸 HIRAI Takayuki

株式会社東京設計事務所 / 東京支社 / 施設グループ / 電気チーム

ヨルダンの首都アンマンで協議

イラクの首都バグダッド市の下水道整備はおよそ35年前に行われていた。バグダッド市は比較的平坦な地形であることから旧市街地には数多くのポンプ場があり、そのうち比較的規模の大きい5箇所のポンプ場は日本のODAで建設されていた。

2011年に有償(円借款)にて下

水道改善事業プロジェクトがバグダッド市から発注され、日本工営株式会社と当社のJVで担当した。

当時もイラクは渡航危険度が高く、バグダッド市に入ることが困難な状況にあった。したがって作業は日本で行い、その成果をもってヨルダンのアンマンにてバグダッド市職員と協議する方式でプロジェクトを進めた。

ここでは、協議場所であったヨルダンの首都アンマンの状況を紹介する。

ヨルダンの概要

通称ヨルダンは正式名ヨルダン・ハシェミット王国であり、中東・アジアに位置する立憲君主制国家である。イスラムの預言者ムハンマドの従弟アリーとハンマドの娘ファティマの夫婦にまで遡る、ハーシム家出身の王が世襲統治する国である。国民の半数余りは中東戦争によってイスラエルに占有されたパレスチナからの難民とその子孫である。

東部は乾燥した森林高原で、オアシスと季節的な川があり、灌漑が行われている。西部は農地が発達し、地中海性の常緑樹が広がっている。国の最高地点はウムアルダミ山の標高1,854mで、頂上は雪で覆われている。西部のヨルダン溪谷には有名な死海がある。標高が-427mで、塩分濃度が約30%もあり、海の約3%と比べ極めて濃い。

首都アンマンはヨルダンの北西の丘の多い地域に位置している。もともと7つの丘の上に建設され、現在



写真1 国旗はためくアンマン市街



写真2 丘に広がるアンマン市街

では周囲の丘まで拡大している。

ヨルダンの夏の平均気温は30℃、冬は1℃まで下がる。11～3月の冬季は西部の降雨が多く、アンマンは標高約700m以上の高地にあるため、寒冷で雪が降ることも珍しくない。

食事

夕食は、ステーキ、イタリアン、中華料理、韓国料理、リアルではない日本料理となんでもある。土地柄イスラム教徒が約80%であることか

ら、ローカルのアラビア料理店はノンアルコールの場合が多い。アルコール類を出す店は決まっており、入店前に確認が必要である。ビールを注文すると大体アムステルビールが出てくる。乾燥地帯でブドウも取れることからワイナリーもあり、ワインも比較的好い。

毎朝食べるホテルのパンと生野菜(キュウリ、トマト)は、素朴だがとにかくおいしい。

昼食は、中東版ファストフードで

あるシュワルマをよく食べた。これは、チキンやマトンの削いだ肉をクレープのような薄い発酵していないパンで巻いたものである。

また、イスラム教の国なのでラマダンがある。今回のプロジェクトでは、ラマダン期間中の協議を申し入れた際に、一旦は了解されたが3日前にキャンセルされた。当然かかった費用は請求したが、やはり、ラマダン期間中は業務に支障が生じる場合があるので、避けた方が賢明である。

通貨

通貨はヨルダン・ディナール(JOD)で、1・5・10・20・50JODの5種類の紙幣があり、コインもある。アンマンでは日本円からJODへの換金が可能であった。1US\$が100円の時期で、1万円は約67JODであった。

比較的物価は高く、お酒を飲むと食事代は1日30～50JOD(4,500～7,500円)程度必要になる。

交通

路線バスとタクシーなどから成る車社会なので、通勤のピーク時には交通渋滞が発生する。また、アンマンは多くの丘に街ができていくこと



写真3 シュワルマ



写真4 お菓子

から起伏が多く、冬季に雪が降った場合は交通マヒを起こす。

下水道

汚水管は布設され、下水処理場も建設されている。しかし、雨はスコールのように短時間で集中的に降る。雨水排除施設はないので、窪地に水溜りができ、なかなか雨水が吐けない。アンマンの年平均降水日数は50日程度と少ないので、雨水整備は進まない状況にあった。

治安

アンマンは比較的治安がよく親日家も多いことから、「日本人だ」と教えると「お友達」と言われるケースが多かった。

日本大使館から「行かない方がいい」と言われている場所では、「アラブの春」の影響で小規模のデモが行われていたが、基本的には近づかないようにすれば安全であった。

スポーツ

国技はサッカーであり、国民全体的にサッカー好きが多い。ワールドカップの予選では日本とよく戦っていた。

ペトラ遺跡

インディージョーンズの映画のロケ地であり、世界遺産にもなっているペトラ遺跡は、アンマンから車で3～4時間の場所にある。

ペトラの地は自然の要害であった。また、西にガザ、北にダマスカス、紅海にも近く、人や物の行き交う要衝の地でもあった。ここは立地条件が良く、紀元前1世紀ごろから、古代ナバテア人の首都として栄え、砂漠を移動するキャラバン隊の中継基地であったと伝えられている。

ペトラの特徴は、スパイス交易の

拠点機能と治水システムだ。雨が降ると、その水は鉄砲水となって渓谷内を通過していたが、ナバテア人はダムを造って鉄砲水を防ぎ、水道管を通して給水設備を造り上げた。

ジャラシュ遺跡

ジャラシュ遺跡はアンマンから車で約40分のところにある。現在も古代ローマ当時の威容を残す記

念碑的建築や公共建造物が多く残る遺跡である。ハドリアヌスの凱旋門、ヒッポドローム（戦車競技場／競馬場）、2つの大きな神殿（ゼウス神殿およびアルテミス神殿）や小さな神殿群の廃墟、列柱で囲まれたオーバル状のユニークな広場、街を貫く目抜き通りである長い列柱道路、2つのローマ劇場、2つの公共浴場、ほぼ完全な形状で残る市壁



写真5 ペトラ遺跡のシーク（遺跡の入り口となる細長い通路）



写真6 ペトラ遺跡のエル・カズネ（宝物殿）

などが代表的なものである。また、あちこちにコリント式で建てられた円柱群が、地震にも倒れず残っている。これらの建築物はローマ時代、裕福な市民の寄付により建設された。さらに、遺跡の道路には、雨水集水口、雨水管路、点検口（清掃用）などの排水システムや貯留槽があり、雨水の再利用の重要性や知恵を感じた。

遺跡を歩いていると、壮大さへとへとになりながらも、繁栄した光景や建設時の労苦に思いを馳せることができ、仕事についてしばし忘れることができた。

アンマン城塞

アンマンの市内にはアンマン城塞がある。城塞の丘ジャバル・エル・カラは古来、人の居住があり、軍事的



写真7 ジャラシュ遺跡の南門



写真8 ジャラシュ遺跡のローマ劇場

政治的に重要な場所だった。その建築物群はローマ帝国、ビザンチン帝国にまで遡る。丘の北端と東端から出土している遺物は、青銅器時代にまで遡る可能性もあるという。丘には、マルクス・アウレリウス・アントニヌス帝が命じて造らせたといわれるヘラクレス神殿がある。

ローマ劇場

アンマンは7つの丘で構成されているところがローマに似ており、古代ローマの兵士や役人に大変好まれた。ローマ時代のフォルム（公共広場）の裏には、観客数6,000人規模の円形劇場がある。このヨルダン最大のローマ劇場は丘の斜面を利用して、アントニヌス・ピウス帝によって138～161年に建設されたと言われている。今もスポーツイベントなどに利用されている。

水が繋ぐヨルダンと日本

ヨルダンを含めた中東の国々は日本との関わりが深く、かつ親日家が多いことから、一部を除き親しみやすい地域である。また、砂漠地帯で水や緑が少ない環境にあり、水に関するビジネスがまだまだ多く潜在している。現にアンマン市の水道は、数百km離れた地域に井戸を掘り、圧送供給をしている。しかし、これらも概ね10数年の暫定施設であり、水不足は深刻な問題となっている。

このようなことを考えれば、水道水源の確保に止めず、天の恵みである雨水利用を含め、貴重な水を有効に利活用する日本の優れた技術を提供することが、地域貢献に繋がるものと考えられる。

<参考資料>
ウィキペディア